

海外ボランティア活動報告書

2011年8月6日～8月19日までCFFという団体で、フィリピンへ海外ボランティアをしてきました。目的は、パック旅行では得られない体験することと、発展途上国の現状を自分の目で見ることです。

・CFFとは

正式名称を非特定営利活動法人 Caring for the Future Foundationといい、世界の弱い立場におかれている子供たちが安心して生活できる「子供の家」の建設・運営などの「子どもたちの支援」と、さまざまな人々との出会いや交流をきっかけに、団体に関わる一人一人が自分のあり方・生き方を考え、お互いの可能性を高めあう、未来の社会を担う「青少年の育成」に取り組む団体です。

CFF ワークキャンプの特徴は国際交流・平和教育・自己開発・組織教育の4点があります。この団体の指導方針に共感し、ワークキャンプへの参加を決めました。

・日程と主な活動内容

主であるワークキャンプ事前研修・事後研修がありました。青少年野外活動センターに集合し、参加理由・現地では何が出来るか・平和とは何かなどを話し合いました。

8月6日 現地集合 同じ便のキャンパーと共にマニラのホテルへ。

7日 スタディツアー マニラ最大のスラム街トンド地区で閉鎖された smorky Mountain・特攻隊発祥の地・死の行進の終着点へ行きました。

その後キャンプ地のセワシウ村へ。

8月8日～16日 ワーク

6:00 起床	14:00～16:00 ワーク
6:30 morning devotion(聖書を輪読)	18:00 夕食
7:00 朝食	20:00～22:00 セミナー
9:00～12:00 ワーク	23:00 就寝
12:00 昼食	

ワークはキャンパーとコミュニティの人々と石垣作りをしました。セメント作りから石・砂運びまでゼロから始めました。

セミナーは基本的に英語で行われ、自己紹介から始まり、参加理由や平和に必要なこと、日本とフィリピンの違い・このキャンプでの自分の役割・お互いの長所と短所などを考え、共有しました。難しいテーマでしたが、共同生活やワークを通してお互いをよく知るからこそ、深い話し合いが出来て、視野が広がったと思います。また、自分の主観的な意見を持ちつつ、他者の客観的な意見に耳を傾けることで新しい考えや気づかなかった自分の一

面にも出会えました。

上記のスケジュールが基本ですが、他に現地の小学校訪問・フィリピン人の老人の方から日本との戦争のお話を聞く **peace seminal** がありました。

8月17日 CFFの児童養護施設「子どもの家」訪問。 現在14人の子どもが生活。

18日 マニラへ移動。フィリピンの障害者施設を訪問。

19日 現地解散 帰国。

・ワークキャンプを通して

着いた当初は、一見日本との違いはあまり感じませんでした。けれども、市街地に進むにつれて川沿いに並ぶ布で覆われた木造家屋が見え、また毎日の水でのお風呂・洗濯板での洗濯など現地での生活様式は全く違いました。その中でも印象的なことは、実際に鶏を殺す習慣に触れたことです。身近ではない「殺す」ということに恐怖を感じましたが、考える間もない程あっけなく終わってしまいました。命はこんなに簡単に失われてしまうことを知り、だからこそ大切にしなければいけないと感じました。そして、今までは普通だった食事をするということにも感謝しようと思いました。

日本は豊か・フィリピンなど発展途上国は貧しいというイメージですが、必ずしもそうではありませんでした。子どもたちの眩しい笑顔や現地の人々の優しさなどフィリピンにあって日本にはないものも沢山あることを知りました。

現地では一日だけホームステイをしました。食事などをお世話になり一泊して翌日帰るというスケジュールでした。短い間にも関わらず、お別れの時に「これを見て、いつでも思い出してくれ」とステイ先のお兄さんが自作の絵をプレゼントしてくれました。このような心のこもった嬉しいサプライズから小さな気遣いまで沢山の暖かさがあり、私も自然と人に対して優しく接することができるようになりました。

このキャンプでは、平和について、自分についてなどを考える機会が沢山ありました。海外ボランティアとして具体的には石垣を作りましたが、本当の貢献はこれからこの経験をどう活かすかだと考えています。このきっかけを無駄にせず、自分に何ができるか、何が必要かを考え続け、このキャンプで得た沢山の絆を大切にしつつ、新しい行動へ繋げていきたいと思っています。